

念ずれば花開く。
「苦の中に光あり」

只見高等学校 野球部監督
長谷川 清之



1 選抜が決定した瞬間のお気持ちは、いかがでしたか。

校長室での事でした。正直、頭の中が真白になりました。自然と嬉し涙が込み上げて来ました。

2 長年の指導で力を入れてきたことは、どのようなことですか。

挨拶や礼儀、野球の厳しさや楽しさはもちろんのこと、最後まであきらめない、チームが一つとなる全員野球が持ち味(目標)

3 例年以上に豪雪でしたが、大会へ向けての準備は、いかがでしたか。

出場が決定してからはまず、練習グラウンドの確保、高校 社会人時代の球友、OBなどをお願いし、県内外への合宿、遠征、練習試合を組み準備を進めていきましたが、コロナ感染が広がり、遠征、宿泊の自粛に苦勞しました。例年ですと3月中頃から、雪国只見から土のグラウンドを求めて春の遠征となるが、2月上旬から県南、いわき、相双地区への遠征を行いました。甲子園へは、3月9日出発。試合まで、現地の練習時間の確保が出来たので、守備、バッテリー連携、投手の投げ込みなどが出来ました。しかし、最後まで打撃力の不安がありました。

4 町民をはじめ、関係者の反響、盛り上がりはいかがでしたか。

只見高校から甲子園、夢の甲子園が現実となり、



9 今後、選手たちに期待することは。

初心にかえり、全員野球、全力プレーで、最後まで白球を追い求めてもらいたい。

10 今後の野球部の展望と選手育成については、いかがですか。

もともと部員数、生徒数が少ない中で、安全に選手育成、強化が出来るように、球場の整備、ナイター施設の充実など、野球部存続はもちろん、部員確保にも力を入れたい。

11 最後に、町民をはじめ全国の皆さんにメッセージをお願いします。

今回の「第94回選抜高等学校野球大会」出場に際し、多大なる励みより御礼申し上げます。21世紀枠はもちろん、夏の大会を含め、再度、甲子園を目指すチーム作りを実行していきたいと思えます。今後ともよろしくお願ひします。

12 その他監督からあれば、何でもお願ひします。

「念ずれば花開く。」「苦の中に光あり」

HASEGAWA SEISHI

6 選手時代を含め、2回目の甲子園で、いかがでしたか。

学法石川の4番(センター)時代に初めて甲子園の舞台に立ち、38年ぶりに今度は監督の立場、高時代の恩師の言葉で、「苦の中に光あり」今までの思いが、あの甲子園のナイトゲームで「層光を感じとれた2時間でした。」

7 監督として、今回の甲子園とは。

すべての高校球児が追い求め夢見る場所、周りの協力なしでは、実現出来ない所

8 帰校式時、こみ上げるものがあったかと思いましたが、何を思っていましたか。

200人以上の町民が出迎える中で、選手、マネージャー15人が無事に甲子園から帰れたことです。全員が甲子園でプレー出来た事に肩の荷が二つ降りたことで、ホットしました。



県内はもちろん、県外からも祝福の声をいただきました。また、東北代表に選考された時、表彰式には、各県の理事長が、只見高校まで足を運ぶ異例の事態となりました。

5 選抜を振り返って、選手たちの戦いぶりはいかがでしたか。

入場行進もなく、前の試合(星稜対天理)が終了し、はじめて甲子園に足を踏み入れました。シートノックでは、エラー有、暴投有でどうなるかと思いましたが、試合では、ダブルプレー、盗塁阻止、牽制アウト、会津勢初の1点、それもタイムリーヒットであり、当たり前を当たり前にプレーしました。13人に大きな力を感じました。



檜葉事前合宿SNAP
2022.2.26~27

福島民友新聞社撮影



檜葉町SOSO.Rならはスタジアム(豪雪地帯で只見町では練習ができないため、土のグラウンドを求めて浜通り地方での合宿)